

フランツ・リストと聖エリザベト ー第1部、フランツ・リスト、その3ー

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル 栗 博志・高田 昌実・萩原 隆二
田島 紘己
鹿児島大学 名誉教授 納 光弘
加治木温泉病院 夏越 祥次
県立大島病院 栗 隆志

[はじめに]

前回に続き「ボンのベートーヴェン像」について述べ、次にロマン派以降のベルカントの女性歌手から、ベルカント・オペラを現代に復活させたマリア・カラスまでの歴史を辿る。

また最後に、ヴェルディの社会事業に言及したい。

[4] ボンのベートーヴェンの銅像建立と記念演奏会、つづき

このように、式典までの経過は、お粗末とも言えるものであったが、出席者は豪華であった。

プロイセン（プロシャ）国王フリードリヒ・

ヴィルヘルム4世夫妻、イギリスからはヴィクトリア女王と夫アルバート公、オーストリア大公フロードリヒ……など、多数の王侯、貴族が出席した。

音楽家では、指揮者ハル、指揮者でヴァイオリニストのシュポーア、ベルリオーズ、マイアベーア、ダビッド、モシュレスなどであった。

ピアノ製作会社のイグナツ・プレイエルの息子カミーユの妻である女流ピアニストのマリー・モーク＝プレイエル（彼女は、クララ・



図18 ボンのベートーヴェン像

除幕式では、像の後方の建物の2階のバルコニーに、王侯が列席していた。

(平野昭著「ベートーヴェン」新潮文庫、昭和60年)



図19 ジェニー・リンド

ベッリーニの「夢遊病の女」を演ずるジェニー。
(Wikipedia)

シューマンに次ぐと言われた)や、歴史的な大歌手の2人「スウェーデンのナイチンゲール」と称えられたジェニー・リンドとポーリーヌ・ガルシア＝ヴィアルドも参加した。

ただメンデルスゾーン、ヒラー、シューマンは出席していない。

式典は、3日間(11日も含めれば4日間)に亘り執り行われた。

- ・8月10日：シュポーアの指揮によるベートーヴェンの「交響曲第9番、合唱付き」「ミサ・ソレムニス、荘厳ミサ曲」の演奏。
- ・8月11日：市民のための盛大な舞踏会が催され、市民が一丸となって式典を盛りあげた。
- ・8月12日：式典のクライマックスの除幕式が挙行された。シュポーアの指揮で、ベートーヴェンの「ミサ曲八長調」の演奏後、民衆で埋め尽くされた会場に、賓客が到着した。像の幕が落とされると、国王は「奴は、こちらに尻を向けている(図17、18参照)」と叫んだ。すかさず「コスモス」の著者で、近代地理学の祖、アレクサンダー・フォン・フンボルトが「彼は生前から無礼な人間でした」と答え、一同爆笑したという。

リストによる「ピアノ協奏曲第5番、皇帝」「交響曲第5番」の演奏も行われた。

- ・8月13日：仮設のフェスティバル・ホールで、リストの「ベートーヴェン・カンタータ」、マリー・モークの得意曲、ヴェーバーの「コンチェルトシュテュック」他、メンデルスゾーンのアリアなどが、4時間に亘り盛大に演奏された。

ベートーヴェンの秘書であったシンドラーも出席したが、彼はリストが「交響曲第5番、運命」を指揮する事を非難する抗議文を、わざわざ新聞に掲載した。

リストは、ベートーヴェンへの尊敬の念から、式典に積極的に協力しただけであるが、ドイツ人の彼は、ハンガリー出身のリストに

対する偏見から、このような行動に出たのである。

ベートーヴェンが活動の場とし、シンドラーが住んだヴィーンに、ベートーヴェンの像が建てられたのは、やっと1880年になってからである。

[第五章：ベル・カントの女性歌手の時代、イザベラ・コルブランからマリア・カラスまで]

ベートーヴェン像の除幕式に、ジュディッタ・パスタとポーリーヌ・ガルシア＝ヴィアルドが出席した事は、女性歌手の台頭を如実に示している。

[1] カストラートの時代

女人禁制の舞台で、ファルセット歌手、カウンターテナー、オート・コントロール・メイル・アルトなどと呼ばれた男性歌手に取って替わり、圧倒的なブレスの長さ、声域の広さを誇り、驚異の歌唱力を持つ、ファルネルリ(1705-1782)らに代表されるカストラート(男性去勢歌手)は、17～18世紀、特にヘンデル(1685-1759)の時代に全盛を迎えた後、次第に凋落傾向を来した。

19世紀になると、イタリアを占領したフランスが、カストラートの雇用制限などを行い、カトリック教会では、教皇レオ13世が1878年に禁止、1903年にピオ10世が、正式に教皇庁礼拝堂から、カストラートを完全に無くした。

最後のカストラートは、モレスキ(1922年没)で、全盛期を過ぎてはいるが彼の歌唱を、録音で聴く事ができる。

[2] ベルカント・ソプラノの時代

カストラート衰退後、そのベルカント歌唱を身に付けた、女性歌手が台頭してきた。

なお女声ソプラノは、その声質により、通常、軽快な声から、重厚、劇的な方へ、レジェ

ロ、リリコ、リリコ・スピント、ドラマティコに分類される。

それらは、ソプラノ・ドラマティコあるいは、ドラマティック・ソプラノと表現される。

また歌唱的には、高音で軽快に技巧を凝らし、玉をころがすように華やかに歌う、コロラトゥーラ・ソプラノもある。

重要な事は、ソプラノ歌手は、声質に応じて、歌える曲が限定される事である。

ドラマティコの歌手は、通常、軽快な声で高音（コロラトゥーラなど）は歌えない。然し稀に両立できる歌手がいる。

それが、ソプラノ・ドラマティコ・ダジリタと呼ばれる歌手である。

ベルカント歌唱で華麗な表現力を持つ女声の歴史は、イザベラ・コルブラン（1784-1845）



図20 マリア・マリブラン

ソプラノ・ドラマティコ・ダジリタのマリア。リストは時に、彼女の伴奏をつとめた。

(Oil painting, Decaisne, Ca1830. Burger, E: Franz Liszt. Princeton Univ. Press, 1989)

に始まる。

その後は、マリア・マリブラン（1808-1836）と、その妹のポーリーヌ・ガルシア＝ヴィアルド（1821-1910）、ジュディッタ・パスタ（1798-1865）、ジュリア・グリシ（1811-1869）、ジェニー・リンド（1820-1887）などが、ベルカントのソプラノとして、一世を風靡した。

概して、作曲家は、歌手の声に魅せられ、インスピレーションを得て作曲した。

上記の歌手の歌唱の録音は、残念ながら残されていないが、彼女らの為に作曲された曲や、残された記録、歌手のレパートリーから、歌唱を推察する事ができる。

(1) イザベラ・コルブラン

ロッシーニの妻となったイザベラは、劇的な声を持ち、コロラトゥーラも歌えた。その事は、作品からも知られる。

ロッシーニは、イザベラのために「セヴィリアの理髪師」「アルミーダ」「イギリス女王エリザベス」「湖上の美人」「セミラーミデ」を作曲した。

(2) マリア・マリブラン

マリアは、19世紀最高の歌手（の一人）と言われる。彼女は、コントラルトから超高音のソプラノまで、個性的で力強く、然も清澄な声で、劇的な感情表現が可能であったと言われる。

彼女は、ロッシーニ、ベッリーニ、マイアベーアなどを歌った。ベッリーニは「清教徒」をマリアの為に書き直した。

シラーの原作「メアリー・スチュアート」（メアリーとエリザベス、2人の女王の権力争い）に材を得た、ドニゼッティの「マリア・ストゥアルダ」は、難産の末、1835年、マリアの主演で、スカラ座で初演された。

ショパンは、彼女の声を「奇跡」と讃えたが、彼女は、落馬事故がもとで1836年、28歳で夭折した。

(3) ポーリーヌ・ガルシア＝ヴィアルド

マイアベアのオペラ「預言者」のフィデリオ役は、ポーリーヌのために作曲された。

彼女の声は、ショパン、サンサーンス、ジョルジュ・サンド、メリメ（ナポレオン3世の側近で「カルメン」の作者）などを魅了した。

ロシア貴族のツルゲーネフは、農奴制を批判した「獵人日記、1852」などのため投獄され、農奴開放に大きい役割を果たした事で知られるが、彼は一方、「アーシャ（片恋）」「初恋」「けむり」「春の水」など、19世紀最大の愛の語り手（私見）でもあるロマンチストで、彼女の絶対的信奉者となり、ロシアを出国し、彼女の家族と共に暮らした事は、よく知られている。

サンドは、小説「コンスエロ、1843」を書いた。ショパンは彼女にピアノを教え、彼女は、ショパンのマズルカを歌曲に編曲。

ブラームスの「アルト・ラブソディ」の初演では、コントラルトを歌った。

(4) ジュリア・グリシ

彼女は、ナポレオンの側近の娘で、後にデ・カンディア侯爵夫人となる。

ベルカント・オペラの最高傑作と言われる、ベッリーニの「ノルマ」初演では、ノルマをパスタが、アダルジーザをジュリアが演じた。

ベッリーニの「カプレッティとモンテッキ」のジュリエットは、彼女の為に書かれ、「清教徒」のエルヴィーラの初演も彼女が演じた。

(5) ジュディッタ・パスタ

ジュディッタが、コントラルトから高音域のコロラトゥーラを完璧に歌えるソプラノ・ドラマティコ・ダジリタであった事は、その曲からも分かる。

英国王ヘンリー8世と、その妃アン・ブーリンの史実に基づく（リチャード・バートンの映画「1000日のアン、1969」でも知られる）ドニゼッティの「アンナ・ボレーナ」のタイ

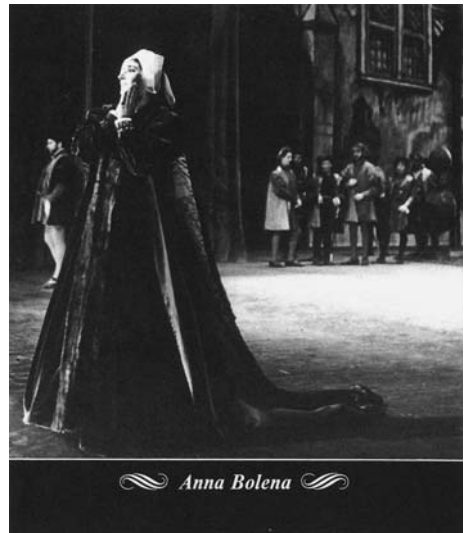


図21 マリア・カラス
ドニゼッティの「アンナ・ボレーナ」ミラノ・スカラ座、1957。
(LP, EMI 2C165-54178/88, P 1954-1978)



図22 マリア・カラス
ベッリーニの「夢遊病の女」のアミーナ、ミラノ・スカラ座、1957。
(LP, EMI 2C165-54178/88, P 1954-1978)

トル・ロール、ベッリーニの「夢遊病の女」でのレジェロのアミーナ、「ノルマ」でのドラマティコのタイトル・ロールの初演を飾っている。すごい事である。



図23 マリア・カラス
ベッリーニの「ノルマ」ミラノ・スカラ座, 1955。
(Michel Brix: Maria Callas. Schirmer/Mosel, 1994)

(6) ジェニー・リンド

メンデルスゾーンは「スウェーデンのナイチンゲール」と呼ばれた彼女の声に魅せられ、オラトリオ「エリア」のソプラノパートを書いた。ヴェルディの「群盗」では、初演の主演を演じた。

アンデルセンは彼女に恋し「ナイチンゲール」「天使」等を書き、求婚したが振られた。そして「雪の女王」を書いた。

ジェニーは、発展途上のアメリカで、1850年に95回の演奏会を開き、35万ドル以上を稼いだ。だが、リスト同様、慈善事業に多額の寄付を行い、更に遺産の大部分も学生教育に寄付した。

なお、ドヴォルザークが、ニューヨークの音楽院の院長に招かれ、「交響曲第9番、新世界より」を作曲したのは、約40年後の1893年の事である。

[3] マリア・カラスの時代

19世紀末から20世紀前半には、ロッテ・レーマン、キルステン・フラグスタート、ジーナ・チーニャ、ジンカ・ミラノフらのソプラノが活躍した。録音の質は悪いが、現在、彼女達



図24 マリア・カラス
ヴェルディの「椿姫」のヴィオレッタ, コヴェント・ガーデン, 1958。
(Attila Csampai: CALLAS. Schirmer/Mosel, 1993)

の歌唱は、CDで聴く事ができる。

また、パイロイトや、メトロポリタン、カーネギー・ホールなどでは、記念の年に、録音付きの記念誌が発行されている(図25, 26)。

その後、19世紀前半のベルカント歌唱を身につけ、劇的で強靱、重厚かつ緊張感のあるドラマチック・ソプラノに加え、ソット・ヴォーチェで、リリックなコロラトゥーラまで可能な歌手が、第2次大戦後に現れた。マリア・カラス(1923-1977)である。

カラスは、圧倒的歌唱力と個性的美貌(彼女は、ニューヨーク生まれのギリシャ系アメリカ人)に加え、真迫の演技で、カヴァティーナ、カバレッタの大アリア形式の多くのオペラを、真の意味で蘇演し、広範なレパートリーを開拓した。

彼女は、天賦の声と才能に、磨き抜かれた歌唱技術を持つDiva(女神)であった。

カラスのレパートリーは、43曲に及び、他に録音のみ(カルメン、ミミ、マノン・レス



図25 バイロイトの100年 (1876-1976)
フルトヴェングラー、クナッパーツブッシュ、リヒャルト・シュトラウスなどの名指揮者が名を連ねる。
(LP, ACANTA HB22. 863 P 1974)

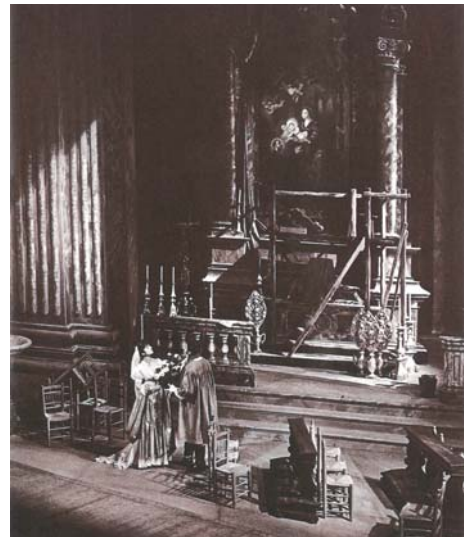


図27 マリア・カラス
プッチーニの「トスカ」コヴェント・ガーデン1964。
(LP: EMI SLS915 P 1965)

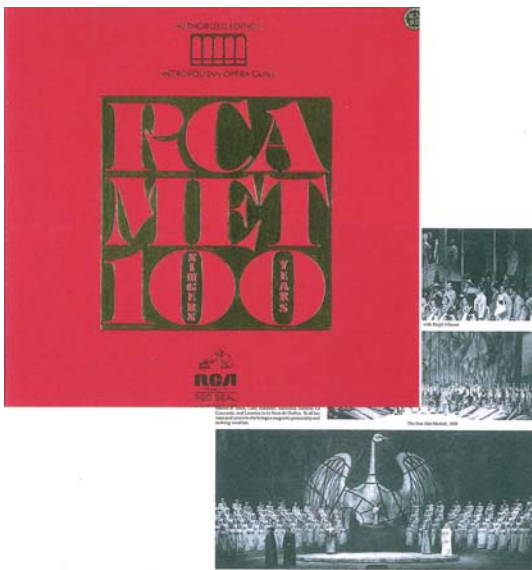


図26 RCA メトロポリタン100年, 100歌手
メトロポリタンの100年の歴史が詳細に記録されている。
(LP, RCA CRM8-5177 P 1972-1984)

コウ、ネッダ) の4曲がある。

私の数え方が正しければ、カラスは、14人の作曲家、34曲の全曲録音83 (同一曲の重複あり) を遺した。桁違いの数である。

劇場では、ノルマ84回、ヴィオレッタ58回、トスカ53回、ルチア43回.....を演じた。

現在まで、カラスを超えるベルカント・オ

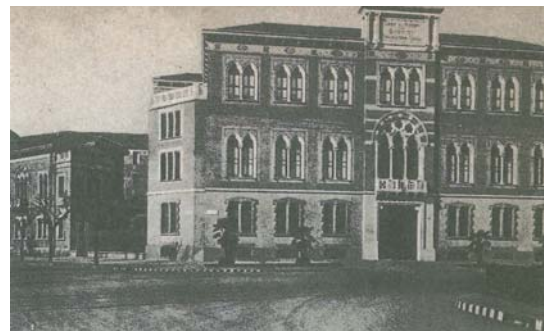


図28 ヴェルディの「音楽家のための憩いの家」
(Peter Southwell-Sander: Verdi. Omnibus Press, 1978)

ペラの華、ソプラノ・ドラマティコ・ダジリタはでていない。

ヴェルディは、19世紀を代表するロマン派オペラの大作曲家の一人である。

彼は晩年、ミラノに引退した音楽家などのための「音楽家のための憩いの家」を建てた。これは、3千m²、80室の立派なもので、ヴェルディの死後も彼の印税で運営され、料金は所得に応じ、無料～年金の80%であった。

これは、近代の社会福祉の源流の1つとも言えよう。